サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

- I.その人らしい暮らしを支える
 - (1)ケアマネジメント
 - (2)日々の支援
 - (3)生活環境づくり
 - (4)健康を維持するための支援
- Ⅱ.家族との支え合い
- Ⅲ.地域との支え合い
- IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価! ステップ 外部評価でブラッシュアップ!! ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

> ーサービス向上への3ステップー "愛媛県地域密着型サービス評価"

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成29年8月30日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	15名	(依頼数)	18名
地域アンケート回答数			3名	

※事業所記入

事業所番号	3870103862
事業所名	すみれの里
(ユニット名)	かりんと
記入者(管理者)	
氏 名	若松紀代
自己評価作成日	平成29 年 7 月 31 日

(別表第1の2)

[事 私だ 活を る方	大切にし穏やかで安心感ににあ	ふれ	[前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果] 行事計画立てると家族に案内状を郵送して参加を求める結果家 年間の行事計画を立てて家族に配布する結果配布じゃなくユニ・ 事を考える結果言葉を発する事が出来ない利用者の思いが少し	ット内	に飾った利用者の生活歴を聞いて一緒に出来る			こル励者見感が	回、外部評価で確認した事業所の特徴】 まで気軽な地域住民との関係が薄かった事業所であったが、グ プホームとしての役割や機能について発信し続け、地道な活動に だ結果、開設13年を経て事業所の運営を支えてくれる地域協力 の縁に恵まれた。事業所の良い面や取り組むべき課題を客観的に め、把握し、前向きな姿勢で乗り越えている。管理者と職員の距離 なく、全職員で利用者の生活を支えるという同じ方向を見ている。 て何よりも、あきらめない姿に魅力を感じる事業所である。
		評	価 結 果 表		ξ施状況の評価】 よくできている ○ほぼできている △時々できて	いる	×	ほとん	」どできていない
項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I .2	その人らしい暮らしを支える								
(1)	ケアマネジメント								
		а	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めてい る。	0	利用者と話す機会を多くして意向の把握につとめている	0		0	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検 討している。	0	家族からの聞き取りや利用者の立場に立って考える様にし ている				「 「一世のよばのよる利田者の圣胡ら寺内の神根を伝い、馴染った
1	思いや暮らし方の希望、意向の把 握	С	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	0	面会時や電話等でよく話し合っている				日常の生活の中で利用者の希望や意向の把握を行い、馴染み の職員が対応するなどして、本人の意向を引き出せるように努め ている。
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	0	個人ファイルとして職員がすぐ手に取り見やすい所に置い ている	\angle			
			職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留 意している。	0	本人に直接聞いている 打ち明けにくい場合は馴染の職員 が対応している				
			利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にして きたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人を よく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。		入居時にケアマネ・家族から聞き取りをしている 本院の こだわり等を大事にしている。 90歳になってもヘアカラー する 入居以前の美容師さんを引き続き利用している			0	
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・で きそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	0	関わった職員全員でわかる事・出来る事話し合い見極めて いる出来た事等は職員間で共有している				。 利用開始までの生活歴は、利用者や家族、関係のあった事業所
2	これまでの暮らしや現状の把握	С	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定に なったりするかを把握している。	0	介護記録に書いて残す様にしている				等から聞き取り、フェイスシートを作成し、全職員が把握している。これまで大切にしてきたことを継続できるよう支援に努めている。
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。 (身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	0	介護記録に書いて残す様にしている 又ユニット会議で職 員の意見を聞き話合っている				
		е	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム 等、日々の変化や違いについて把握している。	0	朝食の時間・相撲を観て居る時の夕食の時間等利用者全員が同じにならない様に気をつかっている 日々の過ごし方の利用者其々に違っている				
	チームで行うアセスメント	а	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視 点で検討している。	0	入居時本人の希望を聞き取りしている 本人が分からない 場合は家族に聞いている			0	
3	(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	0	医師からのアドバイスが有ったり 必要な支援は何か職員 間で検討している	\angle			全職員が参加するユニット会議で話し合い、アイデアを出し合っ ている様子が会議録で確認できる。
	2107	С	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	0	ユニット会議で話している	_		\angle	
		а	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	0	意向や思いが中心の計画となっている	/			
	チームでつくる本人がより良く暮ら	b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本 人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを 反映して作成している。	0	入居時にケアの在り方について話し合い家族の意見を聞き 職員間で意見を出し合っている	0		0	************************************
4	すための介護計画	С	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過 ごし方ができる内容となっている。	0	重度の利用者に関しては」主に家族に聞き取りをしてその 人らしい過ごし方が出来る様な内容となって居る				良く暮らすための課題をわかりやすい言葉で作成している。
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込ま れた内容になっている。	0	主な支えてとしては家族が中心になっているが今後地域の 方達の協力体制が得られるなら利用したい			\mathbb{Z}	

項目 No.	評価項目	小 項 日	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有して いる。	0	勤務初めに介護記録をしっかりと見込んでいる			0	
5	介護計画に基づいた日々の支援	b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録し て職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	0	ユニット会議で評価している			0	・ 介護計画の内容を理解して介護記録を記入するように努め、実施内容を項目に沿ってチェックすることでモニタリングにつなげている。気づきやアイデアは日々業務の中で話し合われているが、 週別記録への記載は統一できていない現状で、記録について苦
		С	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	Δ	介護記録に書く様により詳しく書いている			Δ	手意識を持っているため、技術を向上していきたいと感じている。 利用者の日々の暮らしの様子が活き活きと記録できるように取り 組んで欲しい。
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に 記録している。	0	ユニット会議等で相談している			Δ	
		а	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	0	ユニット会議で行っている			0	
6	現状に即した介護計画の見直し	b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っ ている。	0	ユニット会議で話し合っている			0	介護計画書の見直し時期は管理者が管理し、定期的かつ状態 の変化に応じ、現状に即した介護計画を作成することができてい
		С	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家 族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作 成している。	0	退院時や転倒後等計画の見直しして新プラン作成している			0	
		а	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは 緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	0	Sミーティングを今現在いる職員にて話し合っている			0	
7	チームケアのための会議	b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、 活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	0	毎回司会を変えたり意見の少ない職員には問いかけしたり して積極的に意見が出る様にしている				プログログログログログログログログログログログログログログログログログログログ
		С	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	0	会議開催日も職員が決めている 会議日決めるのも職員 全員に振っている				7容は、日報や申し送りノートで確認し、伝達するしくみをつくっており、不参加の職員も情報を共有している。
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝える しくみをつくっている。	0	会議の用紙を申し送りノートに挟み暫く置いている			0	***************************************
			職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有で きるしくみをつくっている。	0	申し送りノートに細かく記載してなおかつ重要な事柄は口 頭で申し送っている			0	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・ 業務連絡等)	0	介護記録と申し送りノートに書く様にしている	0			プ申し送りノートや会議録の活用で伝達することができている。
(2)	日々の支援								
		а	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を 行っている。	0	今日したい事を利用者が言ってこられた場合は実行すよう にしている				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	0	利用者が自己決定するまで気長に待つようにしている 利用者の意見を尊重している			0	
	利用者一人ひとりの思い、意向を	С	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう 支援している。	0	希望を伝えやすい様に利用者との信頼関係を築く様にして いる又利用者の分かる力に応じて支援している				/ 認知症の進行により、したいことを発言できる利用者は減少傾向 にあるが、表情やしぐさを確認しながら、ゆっくりと選択できる場
9	大切にした支援	d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	0	自分の習慣やペースを大事にされる方は利用者ペースに 任せている その他の利用者は体調に合わせている				を作っている。意思疎通が困難であろうと、利用者全員が喜びの表情等が出せるよう声かけに工夫するなど、利用者の気持ちに沿った支援に努めている。
		е	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出 す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	0	職員は笑顔で優しく声掛けしたり利用者の楽しみを見つけ てレクレーションしている			0	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や 全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし 方ができるよう支援している。		表情や目線等に注意しその人の意向を理解している				

項目 No.	評価項目	小 項 日	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバ シーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動して いる。	0	利用者を尊重しプライバシーに拝領した言葉かけや対応に 気を付けている	0	0	0	
	ー人ひとりの誇りやプライバシーを 尊重した関わり	b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	0	身体状況や精神状況に合わせた言葉かけをしている				利用者の誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや態度等につ いて、職員同士で確認し合っている。入浴や排泄時の場面では、
10		С	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮 ながら介助を行っている。	0	入浴時はバスタオルを常時使用して必ず一人で介助している着替え等も他の利用者様の目に触れない様に隠して脱 衣所まで持参している。				特に羞恥心に配慮した丁寧な声かけに注意している。居室は利 用者占有の場所であることを理解し、ノックや挨拶などの対応が できている。
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所である ことを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	0	利用者様の居室に入る時は許可を得る事が出来る方には 必ず許可を求めている ノックをして5秒位待ってドアを開け る様に徹底している。			0	
		е	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等につい て理解し、遵守している。	0	個人情報の同意書を入所時に必ず頂き 外部からの問い 合わせにも答えない様に職員一同周知している				
			職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	0	職員が忙しい時等は出来る仕事は手伝ってもらっている 例えば食器拭き洗濯物干し洗濯物畳み 買い物の同行等				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの 大切さを理解している。	0	理解はしているがコミュニケーションを取る事が出来ない利 用者様が多く助け合い支え合う事は難しい				
11	ともに過ごし、支え合う関係	С	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	0	少数の利用者様が喧嘩したり仲が良かったりしている 絶えず席替えしたりお出かけを一緒にしたり工夫している 皆ンなが一緒に出来るレク等を考えている				本人の性格や利用者同士の関係性をよく理解し、対応することができている。その日の気分や様子を確認しながら配席に配慮したり、利用者同士のトラブルにも中立的な立場で対応している。
			利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当 事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	0	職員がが間に入りコミュニケーションを摂る 当事者同士の 話をしっかり聞く様にしてある		/		
		а	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係に ついて把握している。	0	入所時に家族より時間をかけて聞き取りしている 家族と の信頼関係を築き常に話しやすくしている				
		D	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所 などについて把握している。	0	家族や本人から得られて情報は職員間で共有している				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援 援		知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本 人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援 している。	0	利用者が行きたい会いたい等と言われる事があれば出来るだけ希望に添うようにしている 昔からの友人が時々訪ねて来られる事がある歳を重ねると友人の数が徐々に減っている				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、 居心地よく過ごせるよう工夫している。	0	面会の時間の幅を広げている。来所時は居室に椅子を持 参してお茶等お出ししている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと							
			利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	0	天候や体調等に合わせて外食やドライブ・散歩等に努めて いる利用者の希望は叶えられるようであれば努めて叶える 様にしている	0	Δ	0								
13	日常的な外出支援	b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出 支援をすすめている。	Δ	これからの課題です				日常的な事業所周辺の散歩で気分転換している。外出行事は集団から個別対応へと移行し、重度の利用者も個々に叶えたい希望をお出れた。							
		С	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	0	重度の利用者は玄関や駐車場あたりまでは散歩している 玄関には頻繁に行っている			0	望でお出かけ計画を作成し、実施することができている。							
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	Δ	家族の協力を促しているが協力が望めない											
		а	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	0	定期的に認知症について院内研修している コミュニケーションを多く摂り個々の状態を把握し対応出来る様に心がけている											
14	心身機能の維持、向上を図る取り 組み		認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・ 排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、 日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	0	利用者個々の身体機能に合わせたケアをしている 維持 向上図れるように日常生活の中でのリハビリに取り組んで いる				を事介助をする職員は、利用者のできることを見極め、じっくりと見守り、できないことを一緒にしたり、言葉で誘導し、ゆったりとした姿勢で取り組んでいる。							
		C	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	0	塗り絵・工作・ゲーム等出来る事見守り又一緒に行うように 心がけている	0		0								
		а	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	0	利用者の生活歴や行動・仕草等を観て役割や出番がある かどうカ把握している				Kananananananananananananananananananan							
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援		認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	0	1人ひとりの趣味に合わせて楽しんで頂けるように支援して いる	0	Δ	0	利用者の有する力を踏まえた楽しみごとや役割について把握している。塗り絵や歌、お話が得意な利用者、針仕事を依頼される利用者等、得意とすることで出番が設けられている。							
		С	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	0	外食 ドライブ 散歩等出掛けている											
		а	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だ しなみやおしゃれについて把握している。	0	自分の意見が言える方にはしっかり聞き取りして話す事が 出来ない方は家族に聞き取りしたり以前の趣味等を大切に して其れに近い物にしている				European Control of the Control of t							
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	0	家族の意見を聞き自分の意見が言える利用者には希望を しっかり聞いて職員が決める事が無いようにしている											
		С	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする 等本人の気持ちにそって支援している。	0	本人の気持ちに沿って職員と一緒に決定している				アセスメントでその人の好みを把握している。肌のお手入れや頭 髪に気を遣う女性利用者には、その人らしさが保てるよう配慮し、							
16	身だしなみやおしゃれの支援	d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめ るよう支援している。	0	外出・正月・行事に合わせて服装を考えてる 行事が無くて も利用者の気分に服の色を変えたりしている				乱れもさりげなく介助し整えていた。重度な状態であっても、同じ 髪型にならないよう近所の美容院の協力などにより支援してい							
		е	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしてさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	0	食べこぼしが見つかれば直ちに衣類交換している こっそ り耳打ちしたりして本人のプライド傷つけない様にしている	0	0	0	ం .							
	f	f	- 	-		f	 			理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	0	希望の店があれば行ける様な支援している				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援 を行っている。	0	髪の希望が言えない利用者でも同じ髪型にならない様に注 意している 近所の美容室からボランティアで来てもらって いる			0								

項目 No.	評価項目	小 項 日	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
		а	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	0	職員は利用者と一緒に献立考えたりして理解している					
			買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともに 行っている。	0	利用者の希望に合わせて手伝ってもらっている 希望メ ニューも取り入れている			0		
		С	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うこと で、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	0	食材は一括購入しているが後片づけのみ一緒にしている 利用者の能力によって出来る事は手伝ってもらっている					
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などに ついて把握している。	0	入居時の聞き取り又は本人からの聞き取りによって職員全 員が把握している					
			献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしい もの等を取り入れている。	0	季節を感じさせる旬の物等進んで取り入れている 7月の 丑の日にはうなぎ丼等 嫌いな方には別献立をつくる予定			0		
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	0	器は陶器を使って用途に合わせた器を使っている ミキ サー食でも彩を考慮している				利用者のリクエストに応じながら献立を作成し、食材は注文配達 を利用している。重度の利用者もおり、準備等の作業が全体的に 困難となっているが、ホットプレート調理やおやつ作りを通して、	
17	食事を楽しむことのできる支援	g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用してい る。	0	入居時に使い慣れた物を持参して頂いている 持ち手の工 夫 スプーン等も考えている			0	目の前で調理の過程を楽しんでもらう工夫をしている。利用者が 使いやすい食器を用い、衛生面に注意して管理している。職員も 利用者と同じ食卓を囲み、声かけして食事のペースを調整した	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとり の様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対 するサポートをさりげなく行っている。	©	食事介助中にさりげなく利用者の摂取状況を確認している 食べこぼしが多い方には最後に片付けしている 床等にこ ぼした時はだまって片付けるか利用者の傍に行って小さな 声で了承もらってから片付けている			0	り、さりげなく食べこぼしなどのサポートを行っていた。献立メニューのバランスを考慮し栄養に偏りがないよう職員会議等で話し合い、利用者個々に合った食事支援に努めている。	
			重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が 食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮して いる。	0	料理が何か必ず分からなくても伝えてから介助している 彩も重視している 酢物等は少し口に入れて味わってから 介助はじめている	0		0		
			利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、 カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	0	栄養士が居ないのできちんとしたカロリー計算は出来ない が食品等バランスに注意している					
			食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態 や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならない よう取り組んでいる。	0	脱水防止には適時水分補給してもらっている ジュース等 も購入して摂取してもらっている					
			職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏り がないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受 けている。	0	栄養士はいないがメニューに片寄が無いように職員全員が 注意している			0		
			食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に 行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	0	適時まな板の消毒 魚や肉を調理する時には包丁を別にしたりしている 調理前には必ず手洗いを忘れない様に注意 している					
		а	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	0	定期的に歯科衛生士による口腔ケアを行っており何でも相 談する事が出来る 定期滝に研修も行っている					
			利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	0	ケア時にしっかりみて把握している			0		
10	口咙中不连海尔士	С	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日 常の支援に活かしている。	0	ケアについて分からない事があれば相談に乗ってくれてい るので日常のケアに活かしている				ロ腔ケアの役割について職員は勉強し、理解している。毎食後、 自力で口腔ケアができる利用者には声かけし、できないところを またっている、比能に広じて計開物料の利用の物料系数に見る	
18	口腔内の清潔保持 	d	義歯の手入れを適切に行えるよ う 支援している。	0	傍について支援している 義歯を外す事が出来ない人に は家族の了解を得て利用者の希望を尊重している				手伝っている。状態に応じて訪問歯科の利用や歯科受診に同行している。今後は全利用者の口腔状態を定期的に確認する取組みを進めて欲しい。	
		e		利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口 腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい 等の支援、出血や炎症のチェック等)	0	最初は利用者にケアしてもらいその後磨き直ししている そ の時にお口のチェックをしている			✓ みを進めて欲しい。 ○	
			虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科 医に受診するなどの対応を行っている。	0	歯科受診出来ないt利用者は訪問歯科を利用して歯科受診希望する方には受診している					

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	0	理解しているので安易にオムツを使用しない様にしている オムツ使用する場合は慎重に話し合っている				
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	0	便秘が認知症及ぼす影響は良く理解している 便秘になると落ち着かなくなる 腸にたまると重大な病気を引き起こす事になる事も理解している				
		С	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便 の兆候等)	0	排尿表や介護記録を利用して排尿パターンを把握するよう にしている				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々の状態にあった支援を行っている。	0	尿意はないがトイレに座って排尿があればトイレ誘導している トイレに座る事が出来る方は基本トイレ誘導している特に排便の場合	0		0	
19	排泄の自立支援	е	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はない か検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	0	トイレに行きやすくしたりトイレの中の環境整えたりしている。				トイレでの自然排泄を基本に、チェックシートで排泄リズムを把握 している。本人の訴えを大切に支援し、本人の能力を活かした支
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声か けや誘導を行っている。	0	利用者のパターンに合わせて声掛けを行っている				援に努めている。
		_	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	0	オムツを使用する時には家族や利用者と費用の面で相談 したり利用者に選択に任せる 安価のオムツを近くの薬局 で購入も検討している				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを 含む)を適時使い分けている。	0	尿量に合わせてパットを使い分けたりトイレに座る事が出 来る方にはパンツ使用したりしている				
			飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予 防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	0	トイレでの排便を目指しており排便を促す為に朝ヨーグルト や牛乳等の摂取をこころがけている				
		а	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	0	入浴の時間や長さは利用者に任せている 細かい希望は 利用者に任せている	0		0	
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	0	自分で洗える所は自分で洗ってもらっている 湯船に浸かっている時には 少し離れた所で見守りしている				週2~3回ユニットにある個別浴槽のほか、機械浴槽を利用し、
20	入浴を楽しむことができる支援	С	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	0	利用者が出来る所は手伝って頂き出来ない所のみ手伝っ ている				安全安楽に入浴している。本人の入りたいタイミングをよく確認 し、対応することができている。
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強い せずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	0	拒否がある人には時間を置いて再度声掛けしたり拒否の 原因を職員で話し合ったり家族から聞き取りしたり拒否の 原因を探っている				
		е	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとと もに、入浴後の状態も確認している。	0	毎日バイタル測定して血圧の異常があれば中止している 入浴後の状態もさりげなく観察している				
		а	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	0	夜間睡眠が十分とれていない時は日中休んでもらっている	たんでもらっている			
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを 取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	0	昼夜逆転の方には昼間に外出をする等している				薬剤は、医療関係者と連携を図りながら調整している。昼夜逆転
21	安眠や休息の支援		睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数 日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討 し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	0	状態の変化により内服の見直しを医師に相談している 睡 眠導入剤安定剤服用してる利用者は少ない				傾向にあっても、その状態を受け止め、利用者と共に行動したり、あたたかい飲み物を飲みながら話す時間を設けている。
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでい る。	0	個々の希望等に合わせて居室で休んだりリビングで休んだ りしている	$\overline{/}$			

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
			家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	0	利用者の希望する時に電話出来る様にしているが電話す る相手の都合も配慮している				
			本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、 必要な手助けをする等の支援を行っている。	0	難聴の方でも電話出来ないと決めつけず一度は試に電話 をかけて観て居る 年賀状や暑中見舞い等を書かないか 探っている				
22	電話や手紙の支援	С	気兼ねなく電話できるよう配慮している。 	0	電話のある場所に椅子をおいたり子機がある場合には自 室にて掛けられる様にしている				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	0	届いた本人に電話するか返事書くか聞く様にしている 返 事が書けない場合は代筆も検討している				
		е	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうととも に、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	Δ	電話がかかってくる利用者もいますが殆どの家族からは電話がかかってこない 字が読める家族には手紙を書いて頂く様にお願いしてみようと思います				
		а	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	0	特に女性にとって財布をj所持する大切さは理解している 男性の利用者も自分でお金を持って好きな物買いたいと言う希望があります。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的 につくっている。	0	買い物に行きたいと言う希望があれば叶える様にしている				
			利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の 理解や協力を得る働きかけを行っている。	Δ	近くのコンビニの従業員の方には理解してもらっている				
23	お金の所持や使うことの支援	d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	0	家族の方の了解を得て利用者がお金を所持している 息 子さんが面会に来られた時におこずかい渡したりしている				
		е	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	0	金額の高い物を購入する時は家族の了解を必ず得ている 利用者が所持する場合にも話し合っている				The state of the s
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への 報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得てい る。(預り金規程、出納帳の確認等)。	0	出納帳は毎月家族に郵送している 領収書も添えている 契約書に定めている				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々の二一ズに対応して、既存のサービスに 捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	0	利用者が精神ディに通いたいと言う希望があり週1回で送 迎していた。病院や家族と相談しながら支援している	0		0	個別対応での外出行事等で、その時々のニーズに対応できるよう柔軟に検討する姿勢を持って取り組んでいる。
(3)	生活環境づくり アルファイ				·				<u>.</u>
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	0	玄関には親しみやすい花等を植えて夏には野菜も育てい る	0	Δ	0	季節の花を植えたり、ちょっと腰かけられる椅子を各所に設置するなど工夫が見られる。
		а	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	0	壁には季節感を表すような壁画を利用者と一緒に作成して 子供向けの飾りは使用してない リビングは広くなく利用者 がコップを取ったり出来る様な作りになっている		0	0	
			利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届 いている。	0	毎日掃除をしている 汚れが目立つ場合はその都度掃除している 出来るだけ大きな物音を立てない様にしている			0	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -
26	居心地の良い共用空間づくり	С	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	0	毎日の食事を作る匂い・音が日常にあふれている 壁には 季節の壁画がはってある				潔に管理している。リビングには調理の香りが漂い、誰かがそば にいる家庭的な居心地の良さを実感できる。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも 独りになれる居場所の工夫をしている。	0	気の合う同士で話し合えるソファーを置き誰でも座れる様 にしている				
		е	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	0	トイレの入り口にはカーテンがあり脱衣所のドアは使用時 には必ず閉める様に職員は気をつかっている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	0	入居時には本人の使い慣れた家具や現在使用している布団等を持参して頂く様に伝えている 畳の生活であれば畳みの使用も検討する	0		0	好みのものを自由に配置し利用している。生活習慣に応じて畳を 取り入れる等の工夫がある。
		а	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	0	トイレの位置が分からない方には目印になる物を置いたり 触ってはいけない物は目につかない所に隠している			0	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づ くり	b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認 識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	0	利用者個人の物は居室に置く様にしている 持ち物には記 名を必ずする様にしている				が 利用者に認識されやすいように掲示物を工夫し、安全に移動できるよう、環境整備に努めている。
		С	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	0	馴染の品物は目の届く範囲に置いている 職員が使用す る時はリビングで利用者の前で使用している				
		а	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	0	出入口には夜間しか鍵をかけない様にしている 鍵をかける事の弊害もきちんと理解している 研修等で勉強している	0	0	0	
29	鍵をかけないケアの取り組み		鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優 先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保に ついて話し合っている。	0	鍵掛けを望む家族には鍵をかける事によって利用者が受ける影響について説明して理解してもらっている				研修等で勉強の機会を持ち、鍵をかけない自由な暮らしを理解し、夜間以外は施錠されていない。
		С	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたら さないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出 の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	0	ホームの出入口には職員が必ずいる様にして留守にする 時には職員間で声掛けしている				
(4)	健康を維持するための支援					,			·
		а	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握し ている。	0	アセスメント等から情報を得て把握に努めている				
30	日々の健康状態や病状の把握	b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に 発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	0	介護記録に残す様にしている	\angle	\angle	\angle	The state of the s
			気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力を している。	0	看護職が常時居る様な体制になっているのでいつでも相談 出来ている				
		а	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望す る医療機関や医師に受診できるよう支援している。	0	利用者の意向に沿って病院受診している 本人の希望で 通っている整形外科もある	0			
31	かかりつけ医等の受診支援		本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	0	家族の希望のかかりつけ医を選択している 選択の際には 事業所との良い関係を築けるかも考慮している				
		С	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあ り方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合 いを行っている。	0	受診前・受診後は必ず家族に電話で報告する事になっている 家族が望む形で受診結果の報告している				
		а	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する 情報提供を行っている。	0	サマリーは必ず渡している サマリーで描き切れない細か い事は入院の際職員から情報提供を行っている				
32	入退院時の医療機関との連携、協 働	b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、 病院関係者との情報交換や相談に努めている。	0	カンファレンスには必ず参加している 病院入時にカンファレンスの時には家族の許可を得て声掛けして頂く様にお願いしている				
		С	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者と の関係づくりを行っている。	0	いつも入院する病院は救急病院ではなかったら決まってい るので顔見知りの職員がいて安心している				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
			介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職 や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ス テーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等 に相談している。	0	利用者の情報や気づきは記録に書かれている 相談は協 力医療機関の看護師にしている				
33	看護職との連携、協働 		看護職もしく訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に 相談できる体制がある。	0	夜間や休日でも電話で相談できる体制をとってもらっている				
		С	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう 体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	0	介護職は少しの変化も見逃さず看護職員に報告している 例えば足が腫れている 皮下出血がある等				
		а	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について 理解している。	Δ	理解しているが分からない場合は看護職に気軽に聞くよう な体制になっている				
			利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	0	内服は朝・昼・夕と色分けされていて服薬直前に再度確認 するようになっている				
34	服薬支援	С	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	0	特に下剤の服用は便の調整が大変で医師と相談しながら 服用している 他の薬も副作用に充分気を付けている				
			漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	0	利用者の状態の変化に伴い薬の見直しをしている 必要のない薬は看護師に相談している				
		а	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	0	人居時には終末期の在り方についてあまり踏み込んだ事が聞けない家族やそこまで考えてない家族の方がいます。 利用者の状態に応じて少しずつ話し合っていこうと思います、また入居時が良い機会となり家族で相談して頂く様にしている				
			重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、 かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有してい る。	0	利用者の終末期については家族の意向・もしくは利用者本 人の意向がはっきりしている場合は協力医療機関の医師・ 看護師・看護師等と話し合っている	0		0	
35	 重度化や終末期への支援	С	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	0	個々の職員の思いや力量を確認してターミナルに備えている			/	看取りの経験があり、利用者それぞれの緊急時対応について職 員は理解している。状態に応じて方針を共有し、協力医療機関と
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	0	家族には対応方針は何回も説明する事にしている 家族は 説明しても理解出来てなかったり忘れて居たりするので何 回もより詳しく説明している				連携し、利用者や家族の希望に沿った終末期の支援に努めている。
			重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	0	今後の変化に備えて準備をしていくがその時にならないと わからない事も多く家族の思いも変わる事もあるのでチー ムで支援できる様に体勢を整えていく				
			家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の 考慮、精神面での支え等)	0	家族とは話し合いを多くして不安を解消できる様にする				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
			職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MR SA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的 に学んでいる。	©	院内研修で定期的に行っている特に秋になると毎年インフ ルエンザや感染性の胃腸炎はしっかり行っている				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生 した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行う などして体制を整えている。		院内研修時実際に吐瀉物の片付け方など訓練している				
36	感染症予防と対応		保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	0	医師会のメールマガに登録していて毎週流行している感染 症などの情報が入る様になっている				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	0	新聞やニュースから情報を集めて対応している				
		е	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等に ついても清潔が保持できるよう支援している。	0	玄関には張り紙をして又アルコールで手指の消毒をお願い している マスクも常時置いている				
Ⅱ.፮	家族との支え合い								
		а	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、 一緒に本人を支えていく関係を築いている。	0	家族がいない利用者は職員が家族の様に接している 家 族の悩みを聞いたり家族の傍に寄り添うようにしている				
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を 行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、 居室への宿泊のしやすさ等)	0	面会時は椅子やお茶をお出ししてゆっくり過ごせる様にしている 面会時は職員は立ち入らない様にしている				
		С	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。 (食事づくり、散歩、外出、行事等)	0	外出・外食時は必ず声掛けする ホームの食事も食べられる る様にしている 行事の声掛けもしている	0		0	
	本人をともに支え合う家族との関係	d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、 家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常 の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等 の録画、写真の送付等)	0	月一回のおたよりでの報告 写真も希望があれば送っている 希望が無くても時々送っている	0		0	
27	づくりと支援	е	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に 感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	0	必要時に連絡取っている				「家族参加型の行事を開催することで足を運びやすい機会をつくり、お便りの発送で、暮らしぶりについて様子を具体的に伝えている。今後はさらに家族等とより良い関係が築けるよう、退職時
37		£.	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	0	認知症の研修等の案内もしている 職員が分かる範囲で 支援している			l /	等の連絡を含め、運営上の事柄やできごとについてわかりやすく報告できるよう取り組んで欲しい。家族の面会時には必ず声をかけ、要望等を聞いたり場合によっては相談に乗るなど対応している。
			事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を 得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職 等)	0	家族にその都度報告はしているが職員の移動特に退職は 報告していない	×		Δ	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	0	クリスマス会・ボランティアの来所時は特に参加を求めている る 家族全員に声掛けしている				
			利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感 のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	0	入居時に起こりえるリスクについては十分に話し合っている 対応策はその都度家族に理解を求めている				
			家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	0	来訪時には必ず声掛けする様にしている まず挨拶から笑 顔で行い近況報告して希望等聞く様にしている			0	

項目 No.	評価項目	小 項 日	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理 解、納得を得ている。	0	契約の蹄鉄時は時間をかけて分かりやすく説明している				
38	契約に関する説明と納得	b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用 者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れる ように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	0	退去時にはサマリー・情報提供表・等必要な書類は速やか に提出している 退去時の説明もしている				
		С	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理 由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実 費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	0	以前料金改定時には家族一人一人に料金の内訳を説明して納得して頂いた				
皿.均	地域との支え合い								
		а	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目 的や役割などを説明し、理解を図っている。	Δ	事業所の設立時からの詳細が分からないので少しずつ理 解をして頂いてる状況です		0		
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	0	去年から町内会長さんが会議に参加して頂く様になってき た		Δ	Δ	
		O	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	0	利用者を見守ってくれている地域の方は増えていると思っ ている				
	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文章の説明	d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	0	遊びに来られると言うのはないがご近所の見学希望の方 は気軽に来られる時があります。				開設以来、地域住民と気軽なつきあいが得られにくく、苦悩を感
39	※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日 常生活圏域、自治会エリア		隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、 日常的なおつきあいをしている。	0	近所の方には合えば必ず挨拶してホームで育てた野菜等 をおすそ分けしてお付き合いしている				でていたが、地道に続けてきた活動が形となり、町内会長や民生委員をはじめとした地域交流が始まった。あきらめない姿勢は大いに評価に値し、今後も良好な関係を深めていって欲しい。また、改めて地域資源を把握していくことで、地域とのつきあいや
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図る ことを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支 援、遠出、行事等の支援)	Δ	近所の方達はここにホームがあるのをご存じなので気軽に 声を掛けて頂いている				ネットワークがさらに拡大することに期待したい。
			利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身 の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援し ている。		利用者にとって何が資源となる野芥探している				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、 日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている (公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	Δ	近くのコンビニ等も利用者を頻繁にお連れして顔を覚えて 頂いている				
		а	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	0	だいたい参加してもらっているが家族の参加が少なく入居 があれば必ず参加してもらっているが古くから居る入居者 の家族の参加が難しい	0		0	
			運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況 (自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等) について報告している。	0	毎回外部評価の結果が出た時点で運営推進会議で報告し ている			Δ	病気知識や薬剤師による薬の勉強会、グループホームの役割 等、議題や開催方法に工夫をしている。地域住民の参加が得ら
40	運営推進会議を活かした取組み	С	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その 状況や結果等について報告している。	0	運営推進会議で出された提案に間して次のj会議で必ず報告する様にしている。		0		れるようになり、広がりを感じさせる一方で、家族参加が得られにくく、参加者が少ないと感じている。参加者にとって魅力的な会議 となるよう工夫を重ね、事業所の成長を共に実感できるような会
	d	d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい 日程や時間帯について配慮・エ夫をしている。	横へと発展できることに耳	を 議へと発展できることに取り組んで欲しい。 				
		е	運営推進会議の議事録を公表している。	0	玄関入ったところに議事録を一年ぶんまとめて置いている				7

項目 No.	評価項目	小 項 日	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.	り良い支援を行うための運営体	制			·				
41	理念の共有と実践		地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	0	事業所理念はトイレリビング等は掲示してユニット会議で読 み上げている				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	0	利用者・家族にはわかりやすく伝えている 特に入居時 見学時	0	×		
		а	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計 画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	0	外部研修案内が届けば職員の興味がありそうな研修を見 つけて資料を渡して事業所負担にて受けれる様にしている				
	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している 法人の代表者であり、理事長や代	b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	0	毎日の業務の中で個々の職員に指導・話し合い等計画的 おこないスキルアップにつなげている				
42	表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該	С	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与 水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場 環境・条件の整備に努めている。	0	年二回の勤務評価を実地して勤務評価が高い職員には給 与等等に反映させている 長年勤務している職員の優遇 複利厚生に力を入れている 勤労者福祉サービスの利用				職員の多くは長年勤務し、表情や働きぶりに良好な関係性が伺えた。法人の代表者は職員がやりがいをもって働けるよう、職場環境の水準を上げるよう努めている。
	部門の責任者などを代表者として 差し支えない。したがって、指定申 請書に記載する代表者と異なるこ とはありうる。	4	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーク づくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させて いく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連 絡会などへの加入・参加)	0	外部研修への参加等積極的に行っている				
			代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づく りに取り組んでいる。	0	個々の職員に業務中に気軽に声掛けして悩みを聞いたり 相談があれば面談を行っている	0	Δ	0	
			代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や 不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解して いる。	0	院内研修でも頻繁に取り上げ事例をホーム内に掲示している 職員間で気軽に注意出来る様な雰囲気作りを行っている				
43	虐待防止の徹底	b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったり する機会や場をつくっている。	0	ユニット会議や食事中などケアについて話し合う様にしてい る				不適切ケアについて正しく理解できるよう、事業所内外の研修に 参加し、話し合いの機会を持っている。
			代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順 について知っている。	0	内部研修等で話し合い見つけた時の対応方法や手順は熟 知している			0	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	0	業務の中で職員の言動を注意払い点検している				
			代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。		職員がいつでも見られる場所に掲示している。	$\overline{/}$			
44	身体拘束をしないケアの取り組み	b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照ら し合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	0	利用者の拘束に当たりそうなケアの場合は職員間で相談し ている				The state of the s
		С	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、 事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を 示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	0	家族から施錠の要請があったが弊害について話し合い 現 在は施錠する事な〈暮らされている				
		а	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。		成年後見制度については研修にも取り上げ職員は勉強し ている日常生活自立支援事業ついて職員はあまり知らな いので今後の研修の課題にする				
45	権利擁護に関する制度の活用		利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	0	以前の家族の実情を聞き成年後見制度を勧めたという事があったその方をお呼びして運営推進会議で研修した	<u>/</u> ,	<u>/</u>		***************************************
			支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センター や専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体 制を築いている。	0	地域包括センターは会議の参加メンバーなので会議終了 後相談している				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生 時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	0	事故対応のマニュアルに沿って対応している				
	急変や事故発生時の備え・事故防	b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を 身に付けている。	0	研修等で各自勉強している ショートミーティング等で話し ている				
46	上の取り組み		事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一歩手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	0	事故があった場合はユニット内で話し合い再発防止に努め ている事故防止の対策は即実行している				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、 事故防止に取り組んでいる。	0	入居時に起こりうるリスクは十分に話し合い対策を講じている毎日の申し送りで気付いた事について情報を共有している				
		а	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法 について検討している。	0	マニュアルに沿って対応している 苦情事態が少ない				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り 組み	b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順 に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・ 報告等している。		市町村に相談 報告する様な苦情は寄せられてない				
			苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス 改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づく りを行っている。	0	納得を得られるのが難しく長期的に話し合いしながら関係 づくりを行っていきたい				
	運営に関する意見の反映	а	 利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等) 	0	利用者と話す機会を沢山とり 気軽に声掛けられる雰囲気作りをしている			0	
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	0	家族と話す機会を沢山とり苦情相談窓口は重要事項説明 書に記載してある 何事も相談している	0		0	 利用者が気軽に思いを口にできるよう、会話のきっかけづくりや
48		С	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な 窓口の情報提供を適宜行っている。	0	相談事項に合わせて必要な機関等の紹介しているし 家族に代わって相談している				雰囲気づくりを大切にするようにしている。面会時は家族に声かけし、意見や要望を聞くことにしており徹底して取り組んでいる。 職員が気軽に要望等が言える職場環境であり、管理者は職員か
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を 直接聞く機会をつくっている。	0	代表者とは月2回話し合える機会を設けている				らの要望等を運営に反映するよう努めている。
		е	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利 用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	0	ユニット会議で話し合っている 職員は提案・意見など積極 的に言ってくれている			0	
		а	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回 以上全員で自己評価に取り組んでいる。	0	自己評価している。				
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一 や学習の機会として活かしている。	0	ユニット会議等で話し合っている				ᄺ ᆸ ᆸ ᆸ ᆸ ᆸ ᆸ ᆸ ᆸ ᆸ ᆸ ᆸ ᆸ ᆸ ᆸ ᆸ ᆸ ᆸ ᆸ ᆸ
49	サービス評価の取り組み	С	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成 計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。		毎月の研修に反映させたりユニット会議で達成に向けて話 し合っている				サービス評価の意義目的をよく理解しようとする姿勢があり、謙虚な姿勢で自己評価に取り組み、その内容を推進会議で話し合うことができている。運営推進会議自体の開催方法に課題があり、併せて事業所の成長に向け、取組みのモニターとして協力が
			評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会 議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらって いる。	Δ	運営推進会議で話し合っている	0	Δ	Δ	得られことに期待したい。
		е	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの 成果を確認している。	0	運営推進会議で報告している				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知 している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	0	消防計画書は作成出来でいる				
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	0	年2回の避難訓練は夜間と昼間対応で実地している				
50	災害への備え	d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検 等を定期的に行っている。	0	避難訓練時に行っている。セコムとの契約しており定期的 に点検を行っている				緊急連絡網が整備され、一週間想定での食料品等の備蓄を備えている。定期的な訓練の実施や、消防署からの具体的なアドバイスは次回の訓練に取り入れる積極性がある。一方で、緊急時の
		е	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の 訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	0	会議等で地域の方との話し合い出来ている 消防署との訓練も年2回行っている	×	×		安全な避難については課題となっており、家族や地域住民を含め、一層の協力・支援体制を構築してもらいたい。
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	0	災害時の連絡網には地域の方の名前が入っている 避難 場所の把握も出来ている				
		а	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	0	運営推進会議等で催し物の報告している				
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	Δ	近所の方の見学時に声掛けしている。近所散歩中に出 会った高齢者の方には必ず声掛けする様にしている		×	Δ	地域住民に積極的に声かけし、事業所の存在や役割について情
51	地域のケア拠点としての機能	С	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	0	会議の参加者地域の方にホーム内のイベントの声掛けし ている			/	報発信したり、啓発活動できる力を持っている。長年積み重ねてきた認知症ケアの実践力を活かした地域活動が、市や地域包括支援センター等関係機関と共に取り組めることに期待したい。
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の 実習の受け入れに協力している。	×	現段階ではないが要請があれば受け入れる				
		е	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	Δ	地域のイベントには参加している。特に秋祭り子供みこし等 の受け入れに積極的です。			Δ	

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

- I.その人らしい暮らしを支える
 - (1)ケアマネジメント
 - (2)日々の支援
 - (3)生活環境づくり
 - (4)健康を維持するための支援
- Ⅱ.家族との支え合い
- Ⅲ.地域との支え合い
- IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価! ステップ 外部評価でブラッシュアップ!! ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

> ーサービス向上への3ステップー "愛媛県地域密着型サービス評価"

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

Ī	評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
	可 四/及 大 /口	工五田區四八 及級州口五田區伽酸五
	所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
	訪問調査日	平成29年8月30日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	15名	(依頼数)	18名
地域アンケート回答数			3名	

※事業所記入

事業所番号	3870103862									
事業所名	ナみれの里									
(ユニット名)	しばもち									
記入者(管理者)										
氏 名	花山朋美									
自己評価作成日	平成29 年 7 月 31 日									

(別表第1の2)

[編 私 だ 活 る 充	事業所理念] さらは利用者の方々のその人らしいた大切にし穏やかで安心感ににあるまました生活を送れる事が出来るをでします。	ふれ	行事計画立で 年間の行事記	てると家! 計画を立	族に案内状 てて家族に	:配布する結り	加を求める結果 果配布じゃなくユニ	ニットダ	ト内に	こ飾った利用者の生活歴を聞					こル励者見感が	回、外部評価で確認した事業所の特徴】 まで気軽な地域住民との関係が薄かった事業所であったが、グ プホームとしての役割や機能について発信し続け、地道な活動に だ結果、開設13年を経て事業所の運営を支えてくれる地域協力 の縁に恵まれた。事業所の良い面や取り組むべき課題を客観的に め、把握し、前向きな姿勢で乗り越えている。管理者と職員の距離 なく、全職員で利用者の生活を支えるという同じ方向を見ている。 で何よりも、あきらめない姿に魅力を感じる事業所である。
<u> </u>	Ī	评	価 結	果	表					・ ・ ・ ・できている 〇ほぼでき	ている △時々	できてい	る	×ほと	んど	できていない
項目 No.	評価項目	項日			内:	 容		自己評価	1己	判断した理	en·根拠		家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I	その人らしい暮らしを支える															-
<mark>(1)</mark>	ケアマネジメント														_	
		а	利用者一人ひる。	とりの思い	いや暮らし方	の希望、意向の	の把握に努めてい	0	0	日々の関わり合いの中で、表情 そるよう努めている	や言葉などから意向	を把握で	0		Δ	
		b	把握が困難な 検討している。	場合や不	・確かな場合(は、「本人はど	うか」という視点で	0	0 2	本人の表情や感情を読み取り 批	握に努めている					
1	思いや暮らし方の希望、意向の把 握	С	職員だけでなく 人の思い」につ				人等)とともに、「本	0	0 {	家族との親密度にもより、出来で な	いる人と出来ていな	い人がい				日常の生活の中で利用者の希望や意向の把握を行い、馴染み の職員が対応するなどして、本人の意向を引き出せるように努め ている。
		d	本人の暮らしたる。	うへの思	思いを整理し、共有化するための記録をしてい											
		е	職員の思い込。 留意している。)つけにより、	本人の思いを	見落とさないように	Δ		留意しているが状況により出来 寺には馴染みの職員が思い等[しにくい				
		а		活環境、	これまでのサ	ービス利用の	こだわりや大切にし 経過等、本人や本 る。	0		は人の持ち物や、衣類、家族、st ∇集に努めている	0人からからの話を聞	き、情報			0	
		b	利用者一人ひできそうなこと				ること・できること・	0	⊚ E	日々努めている						利用開始までの生活歴は、利用者や家族、関係のあった事業所
2	これまでの暮らしや現状の把握	С	本人がどのよう になったりする			いしたり、不安に	こなったり、不安定	0	⊚ E	日々の状態を把握しながら把握	しながら努めている					等から聞き取り、フェイスシートを作成し、全職員が把握している。これまで大切にしてきたことを継続できるよう支援に努めている。
		d	不安や不安定 る。(身体面・料				把握に努めてい う)	0		日々の関わり合いから、その人 間で共有している	の変化に注意して情報	報を職員				
		е	利用者一人ひ 等、日々の変化				活の流れ・リズム	0	0 1	人一人の流れやリズムを観察	・把握している					
	チームで行うアセスメント	а	把握した情報を 視点で検討して		本人が何をオ	求め必要として	いるのかを本人の	0		青報を共有して検討している			_		0	
3	(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	b					を検討している。	0		目に一度のユニット会議や、日⊄ 見を出し合い検討している	てのショートミーティン	グ等で意	_			全職員が参加するユニット会議で話し合い、アイデアを出し合っ ている様子が会議録で確認できる。
		С	検討した内容に している。	こ基づき、 	、本人がより <u>]</u> 	良く暮らすため	の課題を明らかに	0	0 -	1ニット会議で話し、課題を明ら	かにしている		_	\angle	\angle	
		а	本人の思いや	意向、暮	らし方が反映	された内容に	なっている。	0	O 1	意向や思いが中心の計画となっ	ている		_			
_	チームでつくる本人がより良く暮ら	b		の他関係	係者等と話して		あり方について、本 ιの意見やアイデア			k人のニーズに必要な支援を職いる。家族にも意見を聞いている		うにして	0		©	利用者や家族の意向を踏まえた内容となっており、利用者がより
4	すための介護計画	С	重度の利用者 過ごし方ができ	に対して	も、その人が となっている。	慣れ親しんだる	暮らし方や日々の	0		家族様に話をお聞きし、その人に を援している	しい過ごし方ができ	るように				良く暮らすための課題をわかりやすい言葉で作成している。
		d	本人の支え手のまれた内容にな)人たちとの協	力体制等が盛り込	0	0 7	をえの中心は家族がなっている ≚り込まれていないが、これから		力体制は				

項目 No.	評価項目	小 項 日	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
		а	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有し ている。	0	ケアプランはいつでも観られる所に置いている。又、ケアチェック表の上にプランを挟み、チェックを行う際にも観れるようにしている			0	・ ・ ・ ・ 介護計画の内容を理解して介護記録を記入するように努め、実		
5	介護計画に基づいた日々の支援	b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録 して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	0	ケアチェック表を活用し、どうだったかの確認、記録を行って いる			0	施内容を項目に沿ってチェックすることでモニタリングにつなげている。気づきやアイデアは日々業務の中で話し合われているが、 個別記録への記載は統一できていない現状で、記録について苦		
		С	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	0	個人介護記録にこまめに記入している			Δ	手意識を持っているため、技術を向上していきたいと感じている。 利用者の日々の暮らしの様子が活き活きと記録できるように取り 組んで欲しい。		
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別 に記録している。	0	介護記録や申し送りノートなどを活用し、アイデア等の情報の 共有を行っている			Δ			
		а	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	0	6ヵ月毎の見直しを行っている			0			
6	現状に即した介護計画の見直し		新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を 行っている。	0	ユニット会議の際現状確認を行っている			0	介護計画書の見直し時期は管理者が管理し、定期的かつ状態 の変化に応じ、現状に即した介護計画を作成することができてい		
		С	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、 家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を 作成している。	0	状況に変化が見られた時にはその都度見直しを行っている			0			
		а	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるい は緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	0	月に一度はユニット会議(ミーティング)を行い、必要がある時 にその都度会議を行っている			0			
7	チームケアのための会議	b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、 活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	0	お互いに遠慮なく話せるよう工夫している。				日々の申し送りやユニット会議、緊急時にはショートミーティングを実施し、課題について話し合っている。会議等で話し合った内		
		С	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加で きるよう開催日時や場所等、工夫している。	0	出来るだけ参加出来る様に日程を工夫している				§は、日報や申し送りノートで確認し、伝達するしくみをつくって リ、不参加の職員も情報を共有している。		
			参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝え るしくみをつくっている。	0	大事な事は口頭で話したり、申し送りノートや会議の記録にて 正確に伝えている			0			
		а	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有 できるしくみをつくっている。	0	申し送りノートを使い情報共有共有を行っている			0			
8	確実な申し送り、情報伝達	b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	0	申し送りノートへの記入はもちろん、大切な事は個人記録の ファイルにメモ紙を貼ったり、色ペンを使う等して、特記事項等 分かりやすいように工夫している	0			申し送りノートや会議録の活用で伝達することができている。		
(2)	日々の支援										
			利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力 を行っている。	0	その日の状況により、出来ない場合もあるが、出来る様に努力 している				/		
			利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	0	例えば自分で食べたいものを選んで頂く等、自己決定出来る 事はなるべく決めて頂いている			0			
	利用者一人ひとりの思い、意向を	С	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	0	希望を伝えやすい様に信頼関係を築くようにしている。本人の カに合わせている				認知症の進行により、したいことを発言できる利用者は減少傾向 にあるが、表情やしぐさを確認しながら、ゆっくりと選択できる場		
9	大切にした支援		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや 習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴 等の時間やタイミング・長さ等)	Δ	職員側に合わせがちだが、その中でも利用者のペースに合わせられるよう支援している				を作っている。意思疎通が困難であろうと、利用者全員が喜び の表情等が出せるよう声かけに工夫するなど、利用者の気持ち に沿った支援に努めている。		
			利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き 出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	0	職員は笑顔で話し掛け、利用者が楽しく過ごせる様雰囲気作り を行っている			0			
	1	f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情 や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮 らし方ができるよう支援している。	0	今日の表情はいつもと違うね。今日は険しい表情をしているね等、色々なサインを見逃さず、情報を共有しながら、その人にあった対応を心がけている						

項目 No.	評価項目	小 項 日	内 容	自己評価	自己 判断した理由・根拠 家	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
			職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	0	O 1人1人の個性を大切にしながら声掛けを行っている。自尊心を 傷つけないように努めている	0	0	0	
	一人ひとりの誇りやプライバシーを 尊重した関わり	b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな 介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない 言葉がけや対応を行っている。	0	O はり気ない声掛けを心掛けている。耳元で他の人に聞こえない 様に話したり、別の所でさりげなく声を掛けたりと配慮している				利用者の誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや態度等につ いて、職員同士で確認し合っている。入浴や排泄時の場面では、
10		С	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	0	O 着替えの際肌があまり見えない様にバスタオルで覆ったり、同性介助を行ったり、プライバシーに配慮している				特に羞恥心に配慮した丁寧な声かけに注意している。居室は利 用者占有の場所であることを理解し、ノックや挨拶などの対応が できている。
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	0	居室へ入る祭には必ずノックし、返答頂くか、少し待ってから入室する様に徹底しています。また居室不在時には〇〇さん洗濯物を入れますね等要件を話してから入室するように心がけている			0	
		е	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	0	家族には、入所時に個人情報の同意書の説明を行い、サイン ② を頂いている。外部からの問い合わせについても、一切答えな い様に職員は理解し、尊守している				
			職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けて もらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いて いる。	0	O 様々な作業を一緒に行ったりすることで、困った事等助言して 頂いている				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの 大切さを理解している。	0	O 利用者同士の交流を大切にし、支え合う事の大切さを十分に 理解している				
11	ともに過ごし、支え合う関係	С	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。		職員は利用者同士の相性、関係性を把握した上で状況に応じ 〇 た対応を心掛けている。仲の悪い方は席を離す等対応を行っ ている				本人の性格や利用者同士の関係性をよく理解し、対応することができている。その日の気分や様子を確認しながら配席に配慮したり、利用者同士のトラブルにも中立的な立場で対応している。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当 事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	0	O それぞれの言い分等個別にお聞きし、間に入り解消に努めている。又周囲の利用者にも気を配っている				
		а	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係 について把握している。	0	○ 家族や本人にお聞きし情報を集め、把握している /				
	即為表面上原因為明存物件本本	D	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場 所などについて把握している。	0	O 利用者によって情報量は違うが、把握に努めている				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	С	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど 本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう 支援している。	0	O 希望に添えない場合もあるが、行きたい場所があれば、出来る だけ出かけられるように支援している				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	0	窓口を広く設け、いつでも来て頂けるような体勢を整えている。 〇 又、来所時にはゆっくり過ごして頂けるように、椅子やお茶等お 出ししている				

項目 No.	評価項目	小 項 日	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
		а	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)		どこか出かけたい所はないですか?とお聞きし、希望に沿って 出かけたりしている。また、遠くに行けない時には、近所に散歩 に出たり、玄関先に花を見に行ったりしている	0	Δ	0		
13	日常的な外出支援	b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外 出支援をすすめている。	×	ボランティアや地域の人の協力を得ての、外出する機会は作 れていないのが現状である				日常的な事業所周辺の散歩で気分転換している。外出行事は集団から個別対応へと移行し、重度の利用者も個々に叶えたい希	
		С	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	0	利用者の負担にならない程度の距離や、時間に配慮しながら 取り組んでいる			0	望でお出かけ計画を作成し、実施することができている。	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	Δ	家族に協力してもらい、外食やお出かけ、病院受診に出掛ける 利用者はいるが、地域の人に協力してもらい出かける事は出 来ていない					
		а	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	0	認知症に関する研修会を行い、理解している					
14	心身機能の維持、向上を図る取り 組み	b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	0	1人1人に合わせた体操やレクレーションを、無理のない様に取り入れ、取り組んでいる				食事介助をする職員は、利用者のできることを見極め、じっくりと見守り、できないことを一緒にしたり、言葉で誘導し、ゆったりとした姿勢で取り組んでいる。	
		O	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	0	ついつい手を出してしまそうになるが、見守りを行い、ご自身で 出来る事は自分でして頂いている。手伝いが必要な時には一 緒に行っている	0		0		
	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	а	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	0	フェイスシートや過去の生活歴、利用者の日頃の行動等を観 て、楽しみごとや役割、出番等を把握している					
15		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	0	出来る範囲での役割を作り、無理のない様に行っている。	0	Δ	0	利用者の有する力を踏まえた楽しみごとや役割について把握している。塗り絵や歌、お話が得意な利用者、針仕事を依頼される利用者等、得意とすることで出番が設けられている。	
		С	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援してい る。	Δ	本人の得意な事、楽しみな事等の把握から、役割や出番を検討している					
		а	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	0	どんな服装が好みだったのか?家族や本人にお聞きし、その 人らしい身だしなみ、おしゃれを把握している					
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	0	髪型等相談しながら切って頂いたり、洋服なども自分で選んで 頂いている					
		С	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	0	自己決定が難しい利用者には、一緒に考えたり、話を聞いたり している				アセスメントでその人の好みを把握している。肌のお手入れや頭 髪に気を遣う女性利用者には、その人らしさが保てるよう配慮し、	
16	身だしなみやおしゃれの支援	d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽し めるよう支援している。	0	行事や季節に合わせ、その人らしい服装が楽しめる様支援し ている				表に気を追り気性利用者には、その人らしさが保てるより配慮し、 乱れもさりげなく介助し整えていた。重度な状態であっても、同じ 髪型にならないよう近所の美容院の協力などにより支援してい	
		е	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしてさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	0	衣類の汚れ等に気が付いた時には、さり気なく耳元で伝え、着 替える等して頂いている	0	0	0	る。 	
	f		理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	Δ	以前は、馴染のお店に通っていた方もいたが、高齢化により行 けなくなってきている現状がある					
			重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援 を行っている。	0	本人らしさが保てる様に支援している			0		

項目 No.	評価項目	小 項 日	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	0	1人、一人の、これが食べたいといった願いや希望を大切にしている				
			買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともに 行っている。	0	食材は業者発注ですが、一緒に献立を考えたり、調理の仕方 等相談している。			0	
		С	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	0	買い物は業者発注なので出来ないが、後片づけ等、無理のない様に手伝って頂いている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無など について把握している。	0	個人の好きな物、苦手な物、アレルギー等職員は把握している		1/		
		е	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつか しいもの等を取り入れている。	(a)	旬の食材を取り入れ、彩等気を配っている。また、リクエストのあった物、メニューを取り入れている。最近ではリクエストのあったはったい粉をおやつにお出ししました。又、メイン食材が苦手な物だった場合、違うものを個別でお出ししています			0	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康 状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をし ている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器のエ 夫等)	0	ミキサー食や、キザミ食であっても、彩りや盛り付けに工夫している。食器はなるべく陶器の物を使用している。				利用者のリクエストに応じながら献立を作成し、食材は注文配達 を利用している。重度の利用者もおり、準備等の作業が全体的に 困難となっているが、ホットプレート調理やおやつ作りを通して、
17	食事を楽しむことのできる支援	g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用して いる。	0	家で使っていたもの、使いなれたものを使用して頂いている			0	目の前で調理の過程を楽しんでもらう工夫をしている。利用者が 使いやすい食器を用い、衛生面に注意して管理している。職員も 利用者と同じ食卓を囲み、声かけして食事のペースを調整した
			職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。		食事中にさり気なく利用者の様子を確認している。食べこぼしに対しても、さりげなく片付けるか、床にこぼした物などは了承を得てから片付けている。声掛けは傍らに行き小さな声で行っている			0	り、さりげなく食べこぼしなどのサポートを行っていた。献立メニューのバランスを考慮し栄養に偏りがないよう職員会議等で話し合い、利用者個々に合った食事支援に努めている。
			重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者 が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮 している。		今日は〇〇を作ってますよ、いい匂いがしますね。等、声掛けを行いながら雰囲気作りを行っている。	0		0	
			利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	0	個人に合わせて対応している				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	0	栄養補助食品や、食べ物の形態に気を付け、対応している				
			職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを 受けている。		栄養士はいないが、献立にかぶりが無いように考え、食材注文 の際に、調理方等について話し合いを行っている			0	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	0	食材については、資味期限、消費期限を把握し、古い物から使う事を徹底している。調理器具に関しても、使う際には必ず一度洗ってから使う様にしている。まな板等は毎日消毒を行って いる				
		а	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、 口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	0	充分に理解している。				
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、 舌の状態等)について把握している。	0	把握している			0	
		С	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、 日常の支援に活かしている。	0	歯科衛生士より指導して頂き、ケアの仕方等職員間で統一して いる				ロ腔ケアの役割について職員は勉強し、理解している。毎食後、 自力で口腔ケアができる利用者には声かけし、できないところを
18	口腔内の清潔保持	d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。 	0	支援出来ている				手伝っている。状態に応じて訪問歯科の利用や歯科受診に同行している。今後は全利用者の口腔状態を定期的に確認する取組みを進めて欲しい。
			利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、 口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うが い等の支援、出血や炎症のチェック等)	0	毎食後口腔ケアを行い、清潔を保っている。			0	
			虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯 科医に受診するなどの対応を行っている。	0	異状があれば直ぐに訪問歯科医に連絡を入れ、往診に来て頂 いている				

項目 No.	評価項目	小項日	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	族 地 西 評	域が	外部 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高める ことにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用 者の心身に与えるダメージについて理解している。	0	理解している。安易にオムツを使用しない様にしている。使用 する際には本当に必要かどうか、話し合いを行っている。		1		
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	0	理解している				
		С	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便 の兆候等)	0	排泄シートに記録を残し、習慣やパターンの把握に努めている			1	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを 含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその 時々の状態にあった支援を行っている。	0	現状をしっかりと把握し、見直し検討を行っている	0) /		O
19	排泄の自立支援	е	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	0	ユニット会議や日々の話し合いにて、改善案を模索しながら取 り組んでいる				トイレでの自然排泄を基本に、チェックシートで排泄リズムを把握している。本人の訴えを大切に支援し、本人の能力を活かした支
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声 かけや誘導を行っている。	0	個々のパターンに合わせて誘導出来ている				援に努めている。
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に 選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等 について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを 選択できるよう支援している。	0	使用に関しては、家族に相談している。種類は会社指定の物だが、本人が使い慣れている物があれば、それを使用して頂いている		/		
			利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッド を含む)を適時使い分けている。	0	状態をしっかりと把握し、使い分けている		1	1	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予 防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	0	水分を十分に取って頂いたり、野菜を十分に取って頂いたり、 なるべく自然排便を促せるように取り組んでいる		1		
		а	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとり の希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、 回数、温度等)。	Δ	ある程度の希望は聞いているが、できない時もある。長さや、 温度は本人の希望に添える様、無理のない様に支援している	0	, /	1	О
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	0	声掛けを行いながら、ゆっくりと入浴出来る様、見守りを行って いる		1	1	
20	入浴を楽しむことができる支援	С	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	0	自分で出来る事は自分でして頂き、声掛けをこまめに行い、安 心して入浴出来る様支援している			1	- 週2~3回ユニットにある個別浴槽のほか、機械浴槽を利用し、 安全安楽に入浴している。本人の入りたいタイミングをよく確認 し、対応することができている。
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強い せずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	0	時間をおいて声を掛けたり、無理な時には日にちをずらす等、 気持ち良く入浴出来る様支援している				
		е	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとと もに、入浴後の状態も確認している。	0	入浴前には必ずバイタルチェックを行い、状態を確認している				
		а	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	0	介護記録や、夜勤者からの情報を共有して把握している		1	1	
			夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズム を取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行って いる。	0	昼間なるべく動いていて、夜眠れるように、レクレーションや、 散歩などにお誘いし、エ夫している		1	1	
21	安眠や休息の支援		睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数 日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討 し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。		日常の過ごし方をふまえた上で、医師に相談し、処方や薬の量 を調節して頂いている		1		傾向にあっても、その状態を受け止め、利用者と共に行動したり、あたたかい飲み物を飲みながら話す時間を設けている。
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでい る。	0	休みたい時に休める様、個人の意思表示により、休んで頂い ている				

項目 No.	評価項目	小 項 日	内 容	自己評価		家族 評価	地域評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができる ように支援をしている。	0	希望があれば、電話や手紙が送れる、かけられるように支援している				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促した り、必要な手助けをする等の支援を行っている。	0	必要な手助けを行っている				
22	電話や手紙の支援	С	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	0	いつでも電話出来る様に環境を作っている				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	0	本人にお渡しし、音信がとれるようにしている				
		е	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとと もに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	0	理解して頂いている。利用者と、手紙でやりとりされている家族 様もおられる。				7
		а	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解し ている。	0	理解している。自由に買い物が出来る様に支援している				, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的 につくっている。	0	要望があれば一緒に買い物へ出かけている。定期的に外出する機会も設けている				
		С	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先 の理解や協力を得る働きかけを行っている。	0	外出先の車いすの対応やトイレ等、事前に店の情報を把握(下 調べ)し、外出等行っている				
23	お金の所持や使うことの支援	d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めて しまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じ て、お金を所持したり使えるように支援している。	0	現金を所持している利用者も居るが、基本的に小口現金として 預かり、必要時にそこから支払を行っている				
		е	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	0	紛失等のリスクも考えた上で、納得できる方法を話し合ってい る				7
			利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	0	小口現金出納帳、にて管理している。一か月毎に使った金額レシート等、家族様にお渡し、確認して頂いている。現金をお預かりした際にも、預かり証をお渡ししている				7
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々のニーズに対応して、既存のサービス に捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでい る。	0	出来るだけニーズに答えられる様に取り組んでいる	0		©	個別対応での外出行事等で、その時々のニーズに対応できるよう柔軟に検討する姿勢を持って取り組んでいる。
(3):	生活環境づくり								·
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りがで きるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	0	近所は商業施設が多い為、地域の人は少ないが、玄関に花を 植える等、気軽に出入りして頂けるように工夫している	0	Δ	0	季節の花を植えたり、ちょっと腰かけられる椅子を各所に設置するなど工夫が見られる。
		а	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	0	季節の花を飾ったり、壁に利用者と一緒に作った、季節の壁画を飾ったりとしている。リビングはそんなに広くはなく、いつも誰かの気配を感じられる作りになっている		0	0	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き 届いている。	0	テレビの音や採光、照明に気を配っている。まぶしくない様に カーテンを閉めたりもしている。換気もこまめに行うように気を 付けている			0	→ - 壁紙等、経年劣化が目立ちやすい箇所には手を加えながら、清
26	居心地の良い共用空間づくり	С	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、 居心地よく過ごせるよう工夫している。	0	季節の花を飾ったり、電線に止まる鳥を見たり、風景を楽しん だり、季節に合った壁紙を制作するなどして、心地よく過ごせる 工夫を行っている			0	潔に管理している。リビングには調理の香りが漂い、誰かがそば
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながら も独りになれる居場所の工夫をしている。	0	ソファーやテーブル席にて、利用者の過ごし方に合わせて移動 したり、一人で過ごしたり出来る様工夫している				
		е	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	0	リビングの横にトイレや、浴室があるが、使用時はプライバ シーに配慮し、カーテンを引いたり、戸を閉めたり工夫している				

項目 No.	評価項目	小 項 日	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	0	家族と相談しながら、本人の使い慣れた馴染のある物を、入所 の際に持って来て頂き、使いやすい様にレイアウトして頂いて いる				好みのものを自由に配置し利用している。生活習慣に応じて畳を 取り入れる等の工夫がある。
			建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	0	トイレや居室には、必要な方には目印を付け、わかる様に工夫 している			0	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づ くり	b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の 認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	0	同じ様な柄のタオルには目印をつけ、本人の物とわかる様に 認識間違いや、判断ミスをしない様に工夫している				が 利用者に認識されやすいように掲示物を工夫し、安全に移動できるよう、環境整備に努めている。
		С	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れる ように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、 大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・ お茶の道具等)	0	馴染の物はいつも目の届く範囲に置いている				
		а	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、 玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や 閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデ メリット等)	0	出入り口には夜間しか鍵をかけていない。職員は鍵をかける 事によって野弊害を十分に理解している	0	0	0	
29	鍵をかけないケアの取り組み	b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	0	充分に説明を行い、理解して頂いている				研修等で勉強の機会を持ち、鍵をかけない自由な暮らしを理解し、 夜間以外は施錠されていない。
			利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもた らさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している (外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	0	入口に付近には、必ず職員が在中する様にしていて、鍵をか けない様に工夫している				
(4){	建康を維持するための支援							,	<u> </u>
		а	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握 している。	0	フェイスシートや記録等にて現状把握している				The state of the s
30	日々の健康状態や病状の把握	b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期 に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残して いる。	0	表情や行動以外にも気が付いた事や、気になる事を記録に残 し、相談や報告も行っている				
		С	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相 談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努 力をしている。	0	訪問に来て頂いているかかりつけ医、看護師さんとは、気軽に 相談できる関係を築いている。現状から予測されるリスク等、 アドバイス頂いている				
			利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望 する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	0	これまでの病気や、どこの病院に掛かっていたか等の状況は 聞き取りを行い、必要に応じて受診できる様に支援している	0			
31	かかりつけ医等の受診支援		本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と 事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援して いる。	0	家族、利用者の意向に沿って病院受診を行っている。利用者 が希望する病院への受診も行っている				
		С	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有の あり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し 合いを行っている。	0	受診前、受診後には必ず家族に連絡を行っている。家族が希望する形で、結果の報告も行っている				
		а	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する 情報提供を行っている。	0	サマリーは必ず渡している。その他の情報は入院時にお話している				
32	入退院時の医療機関との連携、協 働	b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるよう に、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	0	状態や退院できる見込み等を聞いたりして、情報交換を行って いる				
		С	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者 との関係づくりを行っている。	0	緊急時以外では、いつも往診に来て頂いている病院への、入院なので、日頃からの信頼関係は出来ていて、安心している				

項目 No.	評価項目	小 項 日	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職 や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ス テーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関 等に相談している。		往診時に日頃のバイタル等の現状を伝え相談している。変化 があった時なども細目に連絡を行い、相談している				
33	看護職との連携、協働		看護職もしく訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に 相談できる体制がある。	0	24時間いつでも連絡が出来る体制がある				
			利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる よう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげてい る。	0	少し様子がおかしい時、いつもと違うなと感じた時には、必ず介護記録に残し、相談報告し、情報を共有し、早期発見につなげている				
			職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について 理解している。	0	どんな薬を飲んでいるか等の、服薬管理表を作り、いつでも見 られる様にしている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み 忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	0	朝、昼、夕、眠前の薬の袋を色分けし、服用する時には、日付、〇食後の薬なのかと、名前を読み上げて、誤薬が無いように気を付けている				
34	服薬支援		服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	0	日頃の様子と違った所があれば、必ず記録に残し、口頭でも様子を伝え、確認し、職員間で情報共有している				
			漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	0	新しい薬が追加された時、薬が変わった時等はもちろん、日常 的に本人の状態を様観し、記録に残している。また情報提供し ている				
		а	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変 化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しな がら方針を共有している。	0	入所時、終末期の在り方についてお話をお聞きしている。又、 重度化した時、変化があった時に、その都度思いを聞き、方針 の確認を行っている				
			重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、 かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有してい る。	0	重症化した時や、終末期については入所時や、状態の変化が あった時、その都度に思いを聞き、方針の確認を行っている	0		0	
35	重度化や終末期への支援		管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を 把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	0	本人、家族の思いを踏まえ、今現在できる事、出来ない事の見 極めを行っている			/	看取りの経験があり、利用者それぞれの緊急時対応について職員は理解している。状態に応じて方針を共有し、協力医療機関と
			本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	0	求められ事に対し、出来る事、出来ない事を十分に説明し、対 応方針を決めている				連携し、利用者や家族の希望に沿った終末期の支援に努めている。
		е	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	0	家族、医療関係と連絡を取りながら、利用者がよりよく暮らせる ように支援している				
			家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情 の考慮、精神面での支え等)	0	その日、その日の様子を伝えたり、話をお聞きしたり、その中で 思いを汲み取れる様に支援している				

項目 No.	評価項目	小 項 日	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、M RSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期 的に学んでいる。		完全対応マニュアルがあり、いつでも観られるようになっている。また、流行前にはユニット会議等で研修を行っている				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を 行うなどして体制を整えている。	0	マニュアルに沿って対処方法を行っている。流行前には研修に て対応をおさらいしている				
36	感染症予防と対応	С	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染 症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入 手し、取り入れている。	0	医療機関等の情報を取り入れている				
			地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対 応している。	0	流行時には敏感に対応し、情報収集に努め、対応している				
			職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等 についても清潔が保持できるよう支援している。	0	職員には、うがい、手洗いを徹底している。手の洗い方のポスターを張り、それに沿って手洗いを行っている。来訪者にはマスクと消毒液を用意している				
Ⅱ.፮	就族との支え合い								
		а	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともに し、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	Δ	家族が抱えている様々な思いや、感情に寄り添える、共感できる姿勢、思いを大切にしながら、関わっている				
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を 行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利 用、居室への宿泊のしやすさ等)	0	面会時には、椅子やお茶をお出しして、ゆっくり過ごして頂けるよう対応している。ゆっくり過ごして頂けるように、なるべく居室には立ち入らないようにしている				
	本人をともに支え合う家族との関係		家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	Δ	行事等、あるたびにお誘いしている	0		0	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、 家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日 常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行 事等の録画、写真の送付等)	0	月に一度、近況報告の手紙を送って利用者の様子を伝えている。写真を同封したりもしている。必要時には電話にて連絡している。	0		0	
37	づくりと支援	Ф	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安 に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	0	必要時に連絡を行っている				家族参加型の行事を開催することで足を運びやすい機会をつくり、お便りの発送で、暮らしぶりについて様子を具体的に伝えている。今後はさらに家族等とより良い関係が築けるよう、退職時 等の連絡を含め、運営上の事柄やできごとについてわかりやすく
37		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	0	認知症に関する研修等案内をしている。職員が分かる範囲で 支援している				報告できるよう取り組んで欲しい。家族の面会時には必ず声をかけ、要望等を聞いたり場合によっては相談に乗るなど対応している。
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を 得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退 職等)		行事等のお知らせは出来ているが、職員の入退職などについ ては報告していない	などについ × / Δ			
			家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家 族会、行事、旅行等への働きかけ)	Δ	家族会は行えていない。ホームでの行事は、全員の家族へ連 絡を行っている				/
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧 感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	0	利用者の現状から、起こりうるリスクをお話ししている				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談 したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に 行っている。	Δ	気軽に相談して頂ける様に、来所時にこちらから声を掛け話し掛ける様心がけているが、家族によって、出来ている所と出来ていない所がある。遠方の方については手紙や電話、メールにて連絡を取っている			0	

項目 No.	評価項目	小項日	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家抗評価	族 地址 西 評値	或 外部 西 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	0	契約の締結は時間をかけて分かりやすく説明を行っている		1	1/	
38	契約に関する説明と納得	b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利 用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移 れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	0	退所時には具体的に説明を行った上で、サマリー、情報提供 表等、必要な書類は速やかに提出している。				
		С	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定 理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他 の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	0	料金改定時には、家族一人一人に内訳の文書を送り、理由等 具体的に説明を行い、納得して頂いた		1/	1/	
Ⅲ.均	也域との支え合い							_	
		а	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目 的や役割などを説明し、理解を図っている。	Δ	設立時からの詳細が分からない。機会があれば説明し、少し ずつ理解して頂いている状態です		/ c		
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	0	昨年より、運営会議に町内会長さんが参加して頂くようになり ました			Δ	
		С	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	0	見守ってくれている地域の人は増えて来たと思う		1/	1/	
	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文章の説明	d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	0	遊びに来られる事はないが、見学希望の方は気軽に立ち寄ら れている		1		/ 開設以来、地域住民と気軽なつきあいが得られにくく、苦悩を感
39	※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日 常生活圏域、自治会エリア		隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、 日常的なおつきあいをしている。	0	散歩の時等、挨拶は必ず行うようにしている				プじていたが、地道に続けてきた活動が形となり、町内会長や民生 委員をはじめとした地域交流が始まった。あきらめない姿勢は大 いに評価に値し、今後も良好な関係を深めていって欲しい。ま た、改めて地域資源を把握していくことで、地域とのつきあいや
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	0	行事事等の連絡を行っている				ネットワークがさらに拡大することに期待したい。
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心 身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支 援している。		地域資源の把握は出来ていない				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	0	近所のコンビニやパン屋さん等日頃よ利用者と利用し、挨拶な ど行っいる		1/	1/	
		а	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	0	家族の参加率は少ないが、毎回声を掛ける様にしている。入 所が長期に渡る家族の参加は難しい。地域の民生員等にも参 加頂いている	0		0	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。		外部評価の結果が出た時点で、運営会議で報告を行っている			Δ	病気知識や薬剤師による薬の勉強会、グループホームの役割 等、議題や開催方法に工夫をしている。地域住民の参加が得ら
40	運営推進会議を活かした取組み	С	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で 出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、 その状況や結果等について報告している。	0	参加者から頂いた、意見提案等、取り組んだ事を次の会議で 報告している。また感想等もお聞きしている		C	0	れるようになり、広がりを感じさせる一方で、家族参加が得られに くく、参加者が少ないと感じている。参加者にとって魅力的な会議 となるよう工夫を重ね、事業所の成長を共に実感できるような会
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやす い日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	0	参加しやすい日程を工夫している		C		フ:議へと発展できることに取り組んで欲しい。
		е	運営推進会議の議事録を公表している。	0	玄関の閲覧コーナーにフアィルを置き、公表している				

項目 No.	評価項目	小 項 日	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域 評価	划 外部 計 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.	より良い支援を行うための運営体								
41	理念の共有と実践	а	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、 管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が 理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	0	理念はリビングやトイレに掲示している。ユニット会議や、日々 の業務の中で理念について話し合う機会を設けている				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	0	入所時、見学時に、わかりやすく説明している	0	×		***************************************
		а	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計 画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	0	外部研修の案内にて、興味があるもの、必要な研修に参加し てもらっている				
	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している 法人の代表者であり、理事長や代 表取締役が該当するが、法人の規	b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	0	毎日の業務の中で気が付いたこと、等を話し、指導している				
42	模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理	С	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給 与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう 職場環境・条件の整備に努めている。	0	年に2回の、勤務評価を行っていて、勤務評価に応じて、給与、 賞与に反映されている				横員の多くは長年勤務し、表情や働きぶりに良好な関係性が伺えた。法人の代表者は職員がやりがいをもって働けるよう、職場 環境の水準を上げるよう努めている。
	的ではないと判断される場合、当該 部門の責任者などを代表者として 差し支えない。したがって、指定申 請書に記載する代表者と異なるこ とはありうる。	d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーク づくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させ ていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位 の連絡会などへの加入・参加)		外部研修への参加を促している				
		е	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	0	個々の職員に話しかけ、悩みや相談があれば話を聞いている	0	Δ	0	
			代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や 不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解し ている。		研修に参加し、理解に努めている。ユニット会議や、日々の ショートミーティング等で、不適切なケアはなかったか?と、振 り返り検討している				
	虐待防止の徹底	b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったり する機会や場をつくっている。	0	ユニット会議やシヨートミーティングで話し合う機会を設けてい る				フ - - 不適切ケアについて正しく理解できるよう、事業所内外の研修に
43		С	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされること がないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	0	それって、不適切なケアじゃないの?と皆が注意できる雰囲気 を作り、注意している			0	参加し、話し合いの機会を持っている。
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	0	利用者への事故は職員のストレスや注意力散漫による所も多いことを、会議などで伝え、疲労や、ストレスを溜めないように 注意を払っている				
			代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	Δ	現在、安全ベルトを使用している利用者がいるが、職員は具体 的な行為や、緊急やむを得ない場合について、正しく理解して いる				
44	身体拘束をしないケアの取り組み		どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照 らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	0	定期的に話し合う機会を設け、話し合いを行っている。また開 放に向けての取り組みを行っている				/
		С	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、 事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容 を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	Δ	弊害などを話し合い、取り組みや工夫について分かりやすいよ うに説明を行っている				/
			管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について 学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	Δ	利用者の中に後見人制度、自立支援を利用されている方もいるが、その内容について職員全員が理解しているとはいいがたい				
45	権利擁護に関する制度の活用		利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。		制度の違い、利点の理解が不十分であるため、情報提供や相談等は行えていない				
		С	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	0	地域包括センターには運営会議にはいつも参加いただいていて、必要に応じて連携が取れるようになっている				

項目 No.	評価項目	小 項 日	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発 生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	0	緊急、事故対応マニュアルがあり、いつでも観られる場所に置いている。置き場所も職員は周知している				
	急変や事故発生時の備え・事故防	b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力 を身に付けている。	Δ	職員によっての対応力に差があるため、定期的に初期対応の 訓練を行っている				
46	止の取り組み		事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一歩手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	0	事故が起きた時には、すぐに事故報告書を書き、今後の対応 について話し合いを行っている。ヒヤリハットも活用し、再発防 止に努めている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討 し、事故防止に取り組んでいる。	0	リスクの高い方については、その都度検討して対策を考えてい る				
		а	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法 について検討している。	0	苦情対応マニュアルがあり、いつでも観られる所に置いてある。職員は内容を十分に理解している				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り 組み	b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	0	苦情対応マニュアルに沿って対応している。市町に相談するような苦情は出ていない				
		С	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	0	解決策を対象者にお伝えし、意見をお聞きしている。経過報告 も行い、納得を得ながら話し合いを行っている				
	運営に関する意見の反映	а	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・ 事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	0	利用者と話す機会を多く作り、話しやすい、声をかけやすい雰囲気作りを行っている。意見や要望を個別に聞く機会も設けている			0	
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	0	家族と話す機会を沢山るようにしている。苦情相談窓口は重要 事項説明書に記載してあり、何事も相談している	0		0	利用者が気軽に思いを口にできるよう、会話のきっかけづくりや
48			契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な 窓口の情報提供を適宜行っている。	0	相談事項に合わせて、必要な機関の紹介を行っている。家族 に代わっての相談も行っている				雰囲気づくりを大切にするようにしている。面会時は家族に声かけし、意見や要望を聞くことにしており徹底して取り組んでいる。 職員が気軽に要望等が言える職場環境であり、管理者は職員か
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等 を直接聞く機会をつくっている。	0	代表者には月二回話し合える機会を設けている				らの要望等を運営に反映するよう努めている。
		е	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに 利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	0	ユニット会議にた話し合いを行っている。職員は提案、意見等 を積極的に話してくれている			0	
			代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1 回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	0	自己評価している				
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一 や学習の機会として活かしている。	0	評価することで明らかになる現状や、課題が、次の目標になっている				
49	サービス評価の取り組み	С	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	0	毎月の研修に反映させたり、ユニット会議にて達成に向けて、 話し合っている				サービス評価の意義目的をよく理解しようとする姿勢があり、謙虚な姿勢で自己評価に取り組み、その内容を推進会議で話し合うことができている。運営推進会議自体の開催方法に課題があり、併せて事業所の成長に向け、取組みのモニターとして協力が
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	0	運営会議にて報告を行っている	0	Δ	Δ	得られことに期待したい。
			事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組み の成果を確認している。	0	運営会議で報告している。ユニット会議では取り組みの成果を 報告確認している				

項目 No.	評価項目	小項日	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周 知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	0	消防計画書は作成できている				
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	0	年2回の消防避難訓練を行っている。				
50	災害への備え	d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点 検等を定期的に行っている。	0	セコムとの契約をおこなっており、定期的に点検を行っている				緊急連絡網が整備され、一週間想定での食料品等の備蓄を備えている。定期的な訓練の実施や、消防署からの具体的なアドバイスは次回の訓練に取り入れる積極性がある。一方で、緊急時の安全な避難については課題となっており、家族や地域住民を含
			地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同 の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	0	会議等で地域の方との話し合いは出来ている。消防署との訓練も年に2回行っている	×	×	×	女主な歴報については味趣となってあり、家族や地域住民を含め、一層の協力・支援体制を構築してもらいたい。
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	0	災害時の連絡網には地域の方の連絡先も入っている。また職 員は避難場所、避難経路を把握している				
		а	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	Δ	運営会議等で、催し物の報告を行っているが、地域に向けての 情報発信、啓発活動は行えていない				
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行ってい る。	0	相談に来られた時には支援している		×	Δ	・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
51	地域のケア拠点としての機能		地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	Δ	会議の時に地域の方に声を掛けているが、活用される事が無い。いつでも使ってもらえるように解放している				報発信したり、啓発活動できる力を持っている。長年積み重ねてきた認知症ケアの実践力を活かした地域活動が、市や地域包括支援センター等関係機関と共に取り組めることに期待したい。
			介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の 実習の受け入れに協力している。	Δ	現在ボランティアの受け入れは無いが、要望があれば受け入 れる準備はある				
		е	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	0	秋祭り、子供獅子舞等、毎年来て頂いている			Δ	